



新ミレニアム、介護保険元年を迎えて

日本私立看護系大学協会副会長

東京女子医科大学看護短期大学学長 橋本 葉子

Y2K問題については小渕総理大臣まで国民に注意を促すほど大騒ぎをしましたが、案ずるより産むが易しの諺通り、大問題は起こらず、無事に西暦2000年を迎えることが出来ました。1999年までは新年を迎えることに対して、余り意識することはありませんでしたが、西暦2000年、ミレニアムとなりますと、何か今までの新年を迎えるのとは違ったものが無意識のうちにあったのでしょうか、Y2K問題などに煽られて余計意識するようになってしまったのでしょうか、現実には何も例年と変わっておりませんのに、ミレニアム、2000年、特別な意味を持つ年として新年を迎えました。

医療界にとりまして2000年は介護保険元年という意義深い年となります。未だ嘗て経験したことのないほど極めて短期間の間に、日本は世界一の長寿国となりました。嘗て日本における種々の制度は、先進国の模倣で対処できましたが、高齢社会に対しましては、私たち自らの手で未来を創造しなければならなくなりました。

未来長寿社会の創造は、従来社会と、新しく生まれた高齢者層とが、対等な立場で、新しい社会を創造しなければなりません。高齢者（65歳以上）のうち、要介護者は15%位で、健康で意欲のある高齢者が大部分であるのが現状であります。しかし、高齢者の増加に伴い、老年病や要介護者の頻度が増えるのはやむを得ないことであり、高齢者のプライドを傷つけることなく、介護を必要とする高齢者に対する日本独特の介護システム作りが進められ、4月より実施されることになりました。その前段階として、要介護認定基準も決まり、昨年秋から介護認定

審査会も頻繁に開かれ、ほぼ終了する時期になりました。介護システムを維持する第1号・第2号保険料、介護報酬、支給限度、高額介護サービス費、サービス事業者の指定など、着々と準備は進められておりますが、途中の段階で、種々問題も起こっております。走りながら考え直すという精神で始められた介護保険システムですから、問題が生じたときの素早い対応が望まれます。

我が国の介護システムは在宅介護が重視されておりますので、QOLの維持・向上を目指して、医療面においても在宅医療へのシフトが起こりつつあります。日本が得意としているハイテク技術を導入した福祉機器や介護機器の貸与に対する介護保険給付サービスは、介護システムの大きな柱となっており、人的サービスも含めると、年商4兆円から7兆円にも及ぶ巨大産業に発展することが期待されております。

医療と福祉は一体化して初めて成果を挙げるもので、その最大の担い手になるのが看護関係者であると思います。私たちはよりよい看護、介護が出来る、未来の巨大産業の担い手の教育に力を注ぎましょう。





善意に支えられた6年

前 協会事務局
広沢 克江

お送りいただいた会報で、日本私立看護系大学協会が、新体制となり、新たな活動を始められたことを、拝見致しました。誠に喜ばしく、心から声援を送らせていただきます。

この度、旧事務局最後の担当であった私に、突然、会報第3号に書くように御依頼があり、とまどってしまいました。

と申しますのは、旧事務局の中心になって、ここまで支えてこられたのは、前田アヤ先生のお力によるところが大きかったのだと、きかされていたからです。本来なら、日野原重明先生、長谷川浩先生につき、前田アヤ先生に御執筆いただくのが筋ではないかと思ったのですが、先生は、只今、御入院生活を送っておられます。2月下旬に、お見舞に伺って参りましたが、会話が御不自由で、お話しすることはできませんでした。でも持参した御好物のプリンは、私の差し出す一匙一匙を、大きく口を開けられ、心もち嬉しそうな表情をされて召し上って下さいました。先生は、今年92才になられます。心配ですが、これからだんだん暖くなります。どうか平穏な日々をお送り下さいますようにと、祈るような気持ちで病院を後にしました。

こんなわけで、やむなく私が書かせていただきます。

私は、1992年から、1998年事務局が日本赤十字看護大学に移転するまでの6年間、週2日（会議等ある時は3日）のパートタイムで勤務させていただきました。外部から私が何うようになりましたのは、前提に、大学の事務局長から、「誰か手伝いの人を入れたらどうか。」という御提案が、前田先生のところにあったからだ伺いました。多分、先生の御年齢のこととか、すべてを大学に依存してなりたっている、協会事務局の在り方を懸念されて、おっしゃったのではないかと、推察しております。

私の、事務局での仕事は、前田先生の手足となって動くことでした。やがて2年が経過し、業務内容がつかめてきた頃、今度は前田先生が体調を崩されて、聖路加国際病院、国立国府台病院と、入退院を

くりかえされるようになりました。

一方、事務局の方は、その頃から会員校が増えはじめ、協会結成20周年記念行事の準備、つづいて1995年11月には、祝典の開催、記念誌の発行、更に「日本私立看護系大学の在り方検討会」の諸準備等、仕事に追われるようになってきました。そんな時に、協力を申しでて下さったのが、仲田妙子先生でした。100万の援軍をえた気持ちでした。

協会運営の主軸となってきた企画委員会には、前田先生が、協会結成当初から、愛情と情熱をもって大事に育てこられた、何でも語り合える自由な雰囲気がありました。それですから、委員の先生方に、枠にとらわれることなく、もてる知恵とエネルギーを存分に発揮していただけたのだと思います。

もう一つ、やはり協会結成に参画され、以後20数年にわたり、企画委員長をお引き受け下さいました長谷川先生には、大所高所にたつて貴重な御助言を、数多くいただくことができました。企画委員会の成果を語る時、見おとしてはならない、2つ目の要素だったのではないかと考えております。

このような企画委員会で討議されたことを、事務的に処理するのが、事務局の役目だったのです。

協会の台所事情をご存じの委員の一人は、御自分で収集された切手を御寄付下さいました。また別のお一人は、会議の時に、茶菓を差し入れて下さいました。

この他、皆様には、暖い善意の御支援を沢山いただきました。その中からいくつか御紹介させていただきます。

- 或新設大学に、協会への加盟をお誘いしても御承諾いただけず、その旨、日野原先生に御報告しましたら、その場でご存じの先生にお声をかけて下さり、おかげで総会時の、新会員校紹介に間に合いました。
- 理事会・総会には、毎回休暇をとって、お手伝い下さった、大学事務局の女性職員の方がおられ、私共は、いろいろ教えていただきました。
- 理事会・総会の会場探しは、無料で、100人近く

の人が収容できるということ、お願いできる大学も限られてしまいます。企画委員会としても、あまり同じ大学にばかり御迷惑をおかけするのは申しわけないと、仕方なく、次年度の総会は、私学会館を予定していると発表しました。

それをきかれた慶応義塾看護短期大学の平林洸学長が、勿体ないからと、自校で会場を工面し、御提供下さいました。涙が出る程うれしかったことの1つです。

- 看護リフレッシュコースの当番校をお引き受けいただくのは、大変でした。

そんな状況の中で、開設間もない、国際医療福祉大学の荒井蝶子先生が、率先して担当してもよいと、名乗りでて下さったのです。

天にも登る心地とは、こんな時のことをいうのでしょうか。

- 看護婦国家試験不相当問題の検討は、小委員会が御担当下さったのですが、その中心になって、報告書をまとめて下さったのは、藤田保健衛生大学の中島澄夫先生でした。その内容は、要望書として、厚生省に提出いたしましたが、他の団体のものと違い、厚生省も、いちもくおいて下さっていただいたように思いました。

- 毎年行なわれた、会員校入試日程一覧表の作成は、年毎に作業量の増える面倒な仕事を、長谷川先生が、毎年、まとめの作業をやって下さいました。これも感謝の一語につきます。

- 自己点検、評価に関する協議会の開催につきましては、いくつかの大学が当番校をお引き受け下さいました。その中に、協会のふところ具合を御心配下さってか、協議会のすべての印刷物を、自校の経費でまかなって下さった大学もありました。

思いでは、つきませんが、皆様からの、暖い善意に支えられた6年間、会員校の先生方、聖路加看護大学の皆々様、本当に御指導・御協力ありがとうございました。心から感謝と、お礼の言葉を申し上げます。

最後に、日本私立看護系大学協会の、御活躍・御発展を祈念して、ペンを置かせていただきます。

故前田（郡山）アヤ先生を偲んで

聖路加看護大学学長
常葉 恵子

前田先生は3月14日に92才のお誕生日を間近にして静かに逝去されました。先生は脳梗塞のため、失語症・右半身完全麻痺の不自由な状態となられ、約2年間都内の誠志会病院で療養生活を送っておられました。

先生は昭和6年に聖路加女子専門学校をご卒業。保健婦として、保健所での活動、訪問看護と幅広く実践され、日本の公衆衛生看護の確立に尽力されました。その実践活動と同時に、看護教育にも携われ、長年に渡り、聖路加の看護教育に貢献されたのでした。特に聖路加看護大学となってからは、定年退職に至るまで、学科長、学部長として、その重要な役割を遂行されました。

先生はその他にも多才な能力をお持ちでした。堪能な英語力、オルガン奏者、コーラスの指導者、栄養士の資格まで保持され、豊かな教養、ユーモラスな性格、そして保健婦活動に必要な知識を身につけ、実践活動と教育に奮闘しておられました。

日本私立看護系大学協会との関わりについて申し上げますと、本協会が昭和51年に、本学の前学長である日野原重明先生の発案で発足したことから、日野原先生とご一緒に協会の活動に深く関わり、発展に尽くされました。高齢となられ、動脈硬化による血行障害で歩行不自由な状態になられても、協会への情熱は少しも変わらず、「日野原先生が会長で聖路加に事務所がある間は自分も役割を遂行する」と云われていました。大学の人間として、高齢の先生が事務局をまとめられることに不安を感じることもありました。その様な時に広沢克江姉が事務局を補佐されることとなり、先生はどんなに心強く思われたことか。また大学側としても安心したことでした。

先生の生きがいの大きな目標のひとつでもあった本協会の発展のため、その運営の一翼を担っているという自負が先生を支えていたと考えます。ご高齢であることを忘れさせるユーモアのある会話は独特なものでした。本協会の企画委員会を心から楽しまれ、その準備の時の先生の表情が生き生きとし張り切っていたのが印象的でした。

大きく発展した日本私立看護系大学協会は、先生のような先輩に支えられ、ひとつの時代を越え、現在があると考えます。心から感謝するものです。

理事会報告

平成11年度第2回理事会報告

開催日時：平成11年11月27日（土） 13：10～16：30

場 所：日本赤十字看護大学

出席者：樋口康子、常葉恵子、近藤潤子、柏井昭良、藪田敬二郎、五島嵯智子、村地俊二、堺俊明、
中島紀恵子、中田まゆみ、斉藤泰一、河合千恵子、藤村龍子、平林冽、関戸好子（敬称略）

<報告事項>

1. 事務局報告

1) 本協会事務局を担当している日本赤十字看護大学の新任職員（下地、一ノ瀬、赤地）が紹介された。

2) 国家試験要望書の厚生省への提出について
樋口会長より、去る平成11年11月8日（月）に樋口会長と常葉副会長から厚生省の田村看護課長へ「看護婦国家試験問題に関する要望書」を提出した旨報告された。

3) 理事の交代について
理事の交代について報告された。

（新）厚東篤生（慶応義塾看護短期大学）

（旧）平林 冽（慶応義塾看護短期大学）

4) 慶弔関係について

当協会の名誉会長日野原重明先生の文化功労者受賞に伴い祝電を、昭和大学理事・昭和大学医療短期大学長の神田實喜男氏のご逝去に伴い弔電と生花を送った旨報告された。

5) 会費納入状況および事業活動費について

6) 事務室の設置について

日本赤十字看護大学南館に当協会事務室が設置された旨報告された。

2. 平成11年度事業活動経過報告について

各事業担当理事より活動経過報告がなされた。

<審議事項>

1. 協会教職員セミナーの企画に関する事項

担当理事より運営案が説明され、承認された。また、教職員セミナーの他に理事会主催のセミナーの開催、事務系職員のレベルアップを図るための研修会の必要性について協議されたが、今後事業担当理事が検討することとなった。

教職員セミナーの平成13年度当番校について協議され、第一候補として東海大学、第二候補として藤

田保健衛生大学があげられ、担当理事が調整することとなった。

2. 役員選出に関する事項

会長より役員任期について協議したい旨提案がなされた。審議の結果、事務局が各役員に再任の諾否を尋ね、その結果を踏まえて原案作成の上、再審議することとなった。

3. 今後の事業活動について

1) 管理運営に関する調査研究

今後の活動については、担当理事が協議し次回の理事会で審議することとなった。

2) 会報の発行部数並びに年報の編集について

会報No2. の増刷について提案され、協議の結果、各校上限50部で3千部の増刷をすることとなった。また、会報および年報の必要部数と送付先を事務局から各校に照会すること、年報の編集については、総会や理事会記録並びに各事業報告に基づく事項等に関して事務局で編集することとなった。

3) 単位互換に関する意見の集約について

今後の方向性について協議された。その結果を受け、担当理事とその構成員で意見交換し、次回理事会で報告することとなった。

4) 教育・研究に関する調査研究事業を分離することについて

今後は教育部門と研究部門を分けて事業活動を展開していきたい旨提案され了承された。

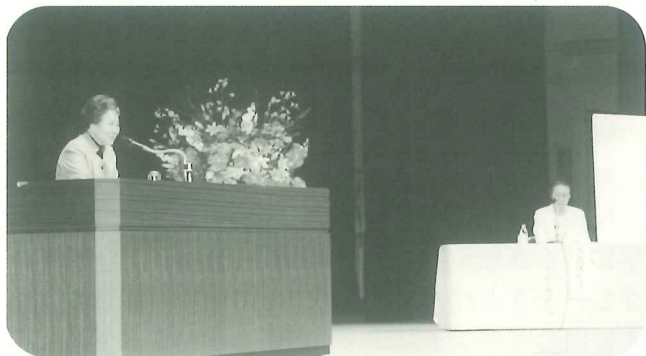
（文責：坂本成美）



第1回日本私立看護系大学協会セミナー

＝医療に求められる課題＝

担当校：東邦大学医療短期大学



東邦医療短大五島学長司会による遠藤順子氏の講演



シンポジウムでの質疑

本協会の第1回セミナーは、東邦大学医療短期大学が担当し、1999年11月12日（金）、13日（土）に「医療に求められる課題」をテーマとして東京都大田区、区民ホール「アプリコ」で開催された。開会に先立ち、担当校である五島学長から「このセミナーにより私学として、現在、医療が直面している問題に対する提案、提言ができることを希望している」旨の挨拶があり、引き続き協会副会長の常葉恵子聖路加看護大学学長、来賓として日野原重明名誉会長の挨拶があった。

講演Ⅰ「心あたたかい医療」

遠藤 順子氏

夫君周作氏の看護を通して医療の本質である「心の医療」についてのお話から多くのことを学ぶことができた。周作氏が人工呼吸器をつけ会話が不可能となつてからは、ただただ主人の足を擦ることしかできなかったが、この間、日本の医療が必ずしも患者の立場に立ったものとは思えない事象に度々出会い、医療者の心の大切さを痛感されたこと、最後に人工呼吸器をはじめ何本かの管を取り去ったとき、すべての医療から解放され歓喜に満ちた顔を見た瞬間「彼は今とても幸せなのだ。彼は今から私と共に生きていくのだということを実感し、これまでになく癒された」と話され、聴衆は多くの感動を受けた。



講演Ⅱ「ほんものの医療を求めよう」

坂上 正道氏（北里大学名誉教授）

医療は人間の尊厳、生命の尊重という本質的な考え方から経済、社会などにも広く、深いかかわりをもちながら、倫理的な実践をしていかなければならない。

今後、医療技術がますます発達していく中で、それが真に人間に多くの利益と幸福をもたらすものか否かを検証することが重要であることを、科学の歴史をたどりながら、広い視野から話された。



シンポジウムⅠ「医療の安全性を求めて」

最近の医療事故の多発は医療を受ける人々に不安を与えている。日本看護協会では1999年4月よりリスクマネジメント委員会が発足し、原因の分析をはじめ、事故防止対策、卒後教育などを検討、実施することをきめている。本シンポジウムに先立ち東邦大学医療短期大学は、担当校として1999年3月～10月300床以上の1569施設に対して「医療の安全性」調査を行い、580施設からの回答があり、事故防止の基本は、幼少時よりの生活習慣、躰の大切さにはじまり看護の基礎教育の中で「基礎技術」「職業倫理」「事故防止教育」が重要であるという点に集約された。医療の安全性を確保するためには卒前教育と共に、「リスク管理士」養成の必要性が強調された。

シンポジウムⅡ「看護制度の未来を考える」

看護管理者として長年努力されてきた方々の意見として、次の4点が挙げられた。

- 1) 卒前、卒後教育に一貫性をもたせた臨床研修
- 2) 継続教育の構築
- 3) 管理者教育の充実
- 4) 看護職が医療チームの要として活躍できる人材の育成。

日本看護協会では21世紀の看護制度に関して重要課題として考えているのは

- 1) 看護教育制度の改革
- 2) 質の高い看護を効率的に提供する仕組みの構築
- 3) 看護職の権限と役割の拡大。

看護教育の立場からは大学に課されている問題は何かを考えると共に、看護学の学術研究をすすめる学問の体系化を図ることが挙げられた。

最後の質疑の中では50年以上続いている保健婦助産婦看護婦法の改善、教育制度の一本化、准看護婦制度の廃止などの意見が多かった。

招待講演

「中国における全人的看護と卒後教育の現状」

華西医科大学附属第一医院看護部長 成 翼娟

中国の看護教育は基礎教育、職業技術教育、普通高等学歴教育、卒後継続教育の4つの部分から構成されている。これら4つの学歴背景は異なっているので卒後継続教育も各々の学歴に応じて実施している。

臨床実習は各科をローテーションしているが、その期間は中専生、短大生、大学生など教育背景によって異なる。

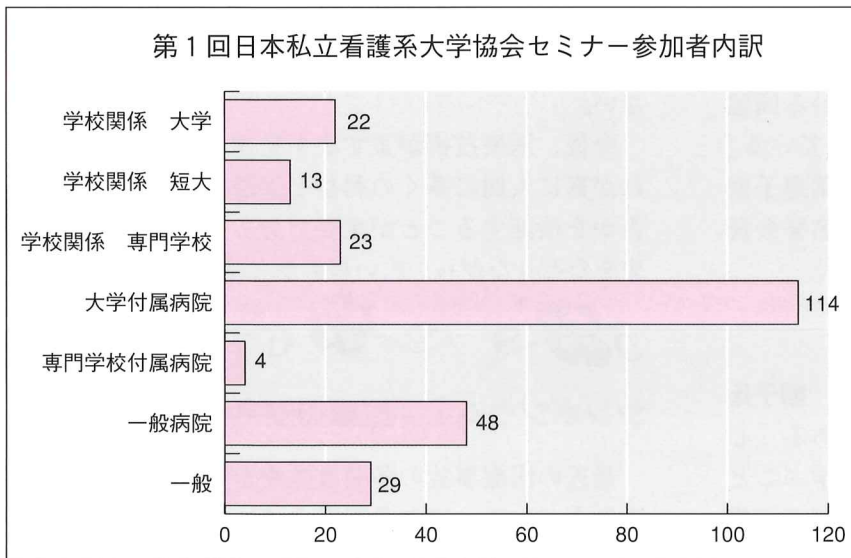
現在、中国は修士のある看護大学5、学士看護大学15、看護短大40があり、看護のレベルアップをめざし、よき人材の育成に努力している。また看護方式に関してプライマリーナーシングの変形であるチームナーシングを取り入れ、病棟における患者の看護についても改善しつつあることなどを紹介された。

懇親会では参加者が相互に和やか、かつ積極的に交流と談話をはかり、これもまた意義あるものとなった。

参加者は266名（担当校の教職員、学生を除く）、終了後のアンケートは100名（女性92、男性8）から回答をいただいた。

〈今後の課題〉

- 第1回のセミナーを担当として今後
- ①日本私立看護系大学協会が全国レベルで展開できる活動の機会としてとらえること。
 - ②担当校が開催地域の特色を生かして、公開講座などを企画する。
 - ③本部から活動を広げるためのPRや準備に必要な費用を増額する。



懇親会場にて交流



第1日目 東邦医療短大生によるお茶のサービス

新加盟校紹介

広島文化学園 呉大学看護学部



呉大学看護学部は、呉市の援助・協力を得て、1995年スタートした社会情報学部に加えて、1999年4月開設されました。設立母体である学校法人広島文化学園の建学精神である「究理実践」に基づき、生涯にわたる自己教育力を身につけ、社会的に実践する能力を育成することを目指しています。

看護学部の教育研究目標

- (1)生命に対する畏敬の念をもって、多様な価値観をもつ人々の権利を尊重し、その対応において倫理観を基底とした態度を養う。
- (2)豊かな感性を養い、自ら考え、自ら行動できる自己教育力を兼ね備えたバランスのとれた人間性を養う。
- (3)身体的・心理的・社会的に統合された存在としての人間の反応を共感的に理解し、全人的対応のできる専門能力を養う。
- (4)人々の健康問題を科学的に思考するために必要な知識・技術を身につけ、自ら研究的に探求し創造する態度および適切な判断力と解決力、柔軟性のある批判的思考力を養う。
- (5)保健・医療・福祉チームにおいて学際的に協力し、ケアの質の向上をはかるためにケースマネジメントとしての機能を果たす能力を養う。
- (6)国際的視野に立った健康問題に関心をもち、常に変動する社会情勢や医療の動向に対して、先見性と理解力をもって看護に貢献できる能力を養う。

カリキュラムの特色

本学部では、対象とする人間のホリスティック(分割すべからざる統一)な把握による複雑な看護援助の実際を、よりの確なものとするために、当大学社会情報学部および短期大学部経営情報学科との

連携による高度な情報処理教育を行い、看護実践能力育成の一助とします。同時にこれは看護教育研究の資質を高めるために多大な貢献をすることになります。

- (1)情報処理能力を育成すること。
- (2)心および人間関係の理解をはかること。
- (3)国際的に通用する種々の能力を身につけること。

以上の三点が本学部のカリキュラム上の特色となっています。

理論と実践の統合

看護学部の履修課程の中で専門理論を背景に実践的知識・技術を高めることを重視します。領域毎に実習室を設け、基礎的レベルから、最新・高度な機器など学生数に相当する設備を整えています。地域において必要とされる技術の習得に不可欠な実際の住環境を模した地域看護実習室や基本的看護技術の修得を容易にするためにTVカメラ、ビデオ、モニターなど視聴覚機器を設置しています。

臨地実習は、呉市および周辺の病院、保健所、各種の福祉施設、学校、訪問看護ステーションなどで行います。実習施設と連携しながら、実践力のある専門職を育成します。

自己評価・点検

今日、大学改革の大きな柱として提唱されている「自己評価・点検」を取り入れ、教員は勿論のこと、学生一人ひとりに至るまで自己の主体性を確立する教育文化の実現に全学で取り組もうと努力中です。



日本赤十字北海道看護大学

住所：北海道北見市曙町664番地の1 電話：代表 0157 (66) 3311



日本赤十字北海道看護大学は、平成11年4月1日、北海道の北東部にあります北見市に開学をいたしました。

日本赤十字社北海道支部（札幌市）が、赤十字看護専門学校5校を含め北海道における今後の看護婦養成をどのように展開していくか、抜本的な検討を開始したのは、約8年前でありました。①少子・高齢化社会、若年女子の高学歴志向、実学志向の女子の増加②医療の高度・専門分化や保健・医療・福祉ニーズの増大の中での看護の役割の拡大③高学歴志向に伴う看護専門学校志望者の質の相対的低下傾向等の看護及び看護教育を取り巻く環境の変化を考える時、現在の専門学校体制のみでは、将来的な対応が難しくなるという危機感から、新たに道内に看護大学を創設しようということになりました。そのことが、地方紙北海道新聞の1面に掲載され、各地方自治体からは是非我が市（町）に設立してほしいとの陳情が相次ぎましたが、北海道内の道東に医療系の大学が無いこと等から、結局一番熱心に誘致活動を展開した北見市に設立する運びになりました。

日本赤十字学園の加盟校は、本学のほかに、日本赤十字看護大学・日本赤十字武蔵野短期大学・日本赤十字愛知短期大学・日本赤十字秋田短期大学そして今年の4月に開学をした、日本赤十字広島看護大学があります。

本学の教育理念は、建学の精神であります赤十字の理念に基づき、社会における看護の役割を認識し、学際的・創造的に看護を実践していく基礎的能力の修得を目的とし、加えて広い知識と深い専門の学芸を教授・研究することを通し、看護の発展に貢献するとともに、国際社会で活躍できる人材育成をめざ

します。

本学の教育目的として

1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を養う。
 2. 人間関係を深めることを通して1人の人間を総合的に理解し、その人の健康に関わる諸問題の解決に必要な知識と技術を主体的に学ぶ態度と方法を養う。
 3. 変化する社会の中で、看護が担うべき役割を認識し、他領域専門家との学際的協力のもとに、将来、看護の発展に寄与できるための基礎的能力を養う。
 4. 保健・医療・福祉の現実を建設的に批判し、論理的批判のできる基礎的能力を養う。
 5. 看護実践の過程を科学的に思考し、将来、看護専門職として教育・研究に直接貢献できる能力を養う。
 6. 看護実践をとおして、国際的に貢献ができる基礎的能力を養う。
- の6つの柱を掲げております。

本学のカリキュラムは、医療・福祉・保健の現状を見据え、理論と実践を融合して全人的ケアを目指し、指導力やコーディネート能力を持ち、国内はもとより国際的にも幅広く活動できる看護専門職者の育成を目指した総合的カリキュラムが特色です。

カリキュラムは、人間、環境、健康、看護、赤十字の5つの基本概念を基に、基礎科目、専門基礎科目、専門科目に分類して体系づけ、赤十字のHumanityを教育の基盤として、感性を兼ね備えた人間性と社会性豊かな人間形成と看護専門職者の育成を目的とした内容で纏めております。

本学の所在地北見市は、北海道の北東部に位置し日本屈指の日照率を誇り、澄んだ青空と森の緑が調和する人口約11万人の都市であります。車で約30分の女満別空港からは、全国の主要都市へ直行便が行き交うオホーツク圏の中核都市であり道央の札幌へは、毎日、JRが5便、高速バスが10便運行する交通の要衝でもあります。

本学は、市街中心部より北東約3.5kmの丘陵地に位置し、近隣には、北見工業大学・北見ハイテクパーク等の教育文化施設、また東陵運動公園・野付牛公園等閉静な環境に恵まれています。

本学のキャンパスは総面積16,701平方メートルで、管理研究棟（6階）、講義演習棟（3階）、実習棟（3階）、図書館、体育館とがあり、屋外には、テニスコート3面、ソフトボール場、駐車場が整備されております。

校舎の特徴といたしましては、北見市は、日本屈指の日照率を誇っておりますので、特に太陽光の利用を積極的に行い、講義棟の中央部と学生ホールを大きな吹抜けとし、四方から自然光を取り入れ、冬期間も明るく暖かい快適な学習施設になっております。

本学は、昨年の4月1日に開学をし1期生108名が入学しました。昨年の7月23日には、日本赤十字社名誉副総裁常陸宮妃殿下ご臨席のもとで本学の開学記念式典を盛大に挙行いたしました。

昨年実施された、第1回大学祭のテーマは「生まれたて」で、今後1歩1歩確実に前進し、生まれたばかりの本学を成長させていきたいという学生達の熱い思いが大きく花開いた催物になりました。やがて4つの大学を有する学園都市北見の風物詩の一つとなることでしょう。

本学は、理想を同じくする皆様との連帯を求めて友情のエールを送ります。



● ● ● ● 投 稿 規 定 ● ● ● ●

協会会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

論壇的なもの：テーマは看護教育を初めとして会員相互に役立つ幾分硬めの論調でお願いします。字数2000字程度
声・手紙・寸評・感想・意見・エッセイなど：肩の凝らない和やかな紙面にしたいと思います。字数400～600字程度
その他 短歌、俳句、写真、スケッチなども歓迎いたします。

締切日は設けておりませんが、会報は年2回5月と11月に発行予定です。

なお、原稿の採否については編集委員会で決めさせていただきます。

原稿送付先

〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1
北里大学 看護学部 中田まゆみ 宛



お知らせ

日本私立看護系大学協議会主催の第2回セミナーを久留米大学医学部看護学科が開催させて頂くことになりました。

2000年という記念すべき節目の年に当地、久留米で開催できることに感謝申し上げ、教職員一同力を合わせて、皆様をお迎えする準備を進めています。

本学は、1928年に創設され、医学部を基盤として、歴史とともに拡大発展してきた私立総合大学であります。

本学看護学科は、1994年に医学部に増設され、筑紫平野の中心久留米市内にあり、雄大な筑後川沿いに医学部と附属病院の同キャンパス内にあります。

今回は右記プログラムの様に「看護の価値の創造」をテーマとして開催することにいたしました。

21世紀の幕開けを目前にして、本格的な高齢化社会を迎える一方、地域保健法による保健所、市町村の役割の変化、介護保険制度の導入と各施設のシステム変化など医療の変革および医療技術の進歩もめざましく発展しております。その中で生と死・生命の倫理が改めて問われている今日、看護教育・看護実践にも変革が求められています。そこで、この社会・医療の変革に対応できる、看護教育・看護実践のあり方に焦点をあてて、本学の特徴と地域の特性を考慮の上、講演、シンポジウムを企画いたしました。

ご参加の皆さんと一緒に学びが深められることを願っております。

尚、第2回セミナーのご案内と参加申込要項は、6月末に発送の予定しております。それでは、11月に久留米でお会いできることを教職員一同楽しみにお待ちしております。



第2回 日本私立看護系大学協会セミナー

テーマ「看護の価値の創造」

日程：平成12年11月10日（金）～11日（土）

会場：筑水会館 2階イベントホール

久留米大学医学部キャンパス内

（〒830-0011 福岡県久留米市旭町67）

プログラム

時間 第1日目 11月10日（金）

9:30 受付開始

10:00 開会

- ・第2回日本私立看護系大学協会セミナー会長
河合千恵子
- ・日本私立看護系大学協会会長
樋口 康子
- ・日本私立看護系大学協会名誉会長
（学校法人聖路加看護学園理事長） 日野原重明

10:30 講演1「看護教育と看護実践の変革」

講師 草間 朋子（大分県立看護科学大学学長）

司会 河合千恵子（久留米大学医学部看護学科学科長）

11:30（昼食）

ビデオ放映

- ・医学科・看護学科学学生合同カンファレンス
- ・模擬患者を使つての講義風景

13:00 シンポジウム1「看護教育と看護実践の統合」

司会 小幡 セイ（久留米大学医学部看護学科教授）

山下 文雄（元久留米大学医学部看護学科学科長）

1. 「教員としての成長—人間への理解の大切さ」
（関西学院大学教職教育研究センター長・教授）
横山 利弘
2. 「意味のある臨床実習を考える—経験型実習教育を中心に」
（岡山大学医学部保健学科教授） 安酸 史子
3. 「大学と実践の場における協働の試み」
（久留米大学医学部看護学科教授） 入部 久子
4. 「看護実践と研究について」
（東京女子医科大学病院副看護部長） 山崎 慶子

16:15 懇親会（筑水会館1階中会議室）

時 間 第2日目 11月11日(土)

8:30 開場

9:00 講演2「性の特性と看護」

講師 狩野 啓子(久留米大学文学部国際文化学科教授)

司会 生野 繁子(九州看護福祉大学看護学部助教授)

10:00 シンポジウム2「在宅ケアはどうなるか」

司会 植田美佐恵(久留米大学文学部社会福祉学科教授)

中島 洋子(久留米大学医学部看護学科助教授)

1. 「入院から外来そして地域へつなぐ継続看護の取り組み」

(久留米大学病院外来婦長) 高松むつ子

2. 「地域医療・在宅ケアの現状と課題」

(久留米リハビリテーション病院院長)

柴田 元

3. 「在宅介護を受けている家族の立場から(仮)」

中野 文治

4. 「在宅ナースが抱える問題とその対応策」

(在宅看護研究センター代表・日本在宅看護システム株式会社代表取締役) 村松 静子

12:10 次回担当校挨拶

12:30 閉会

夏の花々

このところの俳句ブームにはめざましいものがあります。かつては第二芸術とか結核文学とか言われたこともあるようですが、いまでは小学生の句会もあれば、国際俳句会も開催されています。

俳句は本来、紙とエンピツがあれば、いつでもどこでもひとりでも十分に楽しめるものですが、同好の人々と吟行し句会で評価し合う、いわゆるグループ学習は楽しいし、学びの効果もあがるようです。

俳句は読むより、詠む(つくる)ものと思っていたのですが、厚かましくも最近の自分の句に註釈を試みました。

*花は葉に葉っぱのフレディ探しけり

俳句では花と言えば桜のこと、桜は花が散るやたちまち葉桜となって緑陰をつくり、秋ともなれば桜紅葉に変身する。桜の若葉を見上げながら、人気童話の「葉っぱのフレディ」を思い浮かべた。

*峨眉山も廬山も知らず山躑躅

峨眉山^{がび}も廬山^ろも中国の名山である。特に峨眉山は植物の宝庫であると聞く。中国へ行ったことはなく、実際には知らないけれど眼前に咲く山躑躅^{やまつつじ}はさながら中国の名山に見るようだった。

*おのがじし言いたきことを桐の花

桐の花は清楚で奥ゆかしく、やさしさそのものである。しかし、葉から飛び出して真っすぐに咲いている姿をじっと見ていると、この花は各自それぞれ強い主張をもって、言いたいことをはっきり言う、そういうものを内面にもっているように思えてきた。

*布袋草^{ほていそう}ころやさしき漢たち

「布袋草が咲いているよ」と吟行仲間の男性。「どれ、どこに」「なるほどこれが布袋草か」とのぞきこむ女性達。「丸い葉に空気が入っていてあれで水に浮いている」と説明してくれる男性。漢たちはやさしい。流れるともなく浮いている布袋草。

*鷺草の咲く世田谷に迷ひ込み

東京世田谷の道路はわかりにくい。タクシーの運転手泣かせと言われる。隣の区の杉並に住む私も自転車を出かけては迷う。道を尋ねた家の庭先

で鶯草^{さきそう}が、ありなしの風にゆれていた。鶯草は世田谷区の花である。

編集後記

*マロニエやモンマルトルに立ちしこと

吟行コースのマロニエの花を見上げた。数年前、在外公館に勤務する娘を尋ね、パリを案内してもらった。私は半月板損傷の術後で杖をついていたのだった。

*馬鈴薯の花や小さくなりし母

実家の母は86歳になるが、ひとりで8反歩の屋敷をまもっている。母の指示で私共が植えた馬鈴薯（じゃがいも）は薄紫の小さな花をつけた。母はご満悦である。それにしても小さくなり給うた。

*踏み切りが鳴ってままこのしりぬぐひ

ママコノシリヌグイは野原や水辺で見かけるタデ科の一年草でピンク色のかわいい花をつける。茎は1～2メートルに伸び、その茎にも花柄にも固いトゲが下向きに一面に生えている。ママコノシリヌグイは俗称で、学名はトゲソバという。

*薔蘭のあまた咲かせてさびしかり

薔蘭^{やがらん}は夏の終わりに40センチ程の花茎を伸ばし、花穂に淡紫色の小花を沢山つける。にぎにぎしさのなかのさびしさ、わが国伝統の美意識と言うのかもしれない。

*鋸の音はたと止む葛の花

製材所の電動鋸^{のこぎり}の甲高い音が止んで静かになると葛の花が見えてきた。葛は豆の花に似た赤紫の花をつける。甘い香りがただよう。鋸の音と葛の花は何の関係もない。関係のないものどうしを関係づけるのを超現実的詩法というそうである。

*まっさきにはきだめ菊が咲きにけり

「はきだめ菊」は東京世田谷のはきだめで発見されたという。命名は牧野富太郎。はきだめ菊だからといって遠慮はしない、まっさきに咲いた。

日赤武蔵野短期大学専攻科地域看護学専攻
中川 禮子（俳人協会会員）

生命の美しさ、強さ、鮮やかなることを教えてくれる若葉の季節となりました。毎年、長い冬を越えて訪れるこの時を楽しみにしています。

しかし、この5月の大型連休中、17歳という本来ならば若葉のような青年たちが、筆舌にも尽くしがたい残酷な犯罪行為に走るニュースに触れ、胸が痛くなりました。改めてこの時代、社会のあり方、日本はどこへ向かおうとしているのか考えさせられました。

看護は、人へのおもいやりを亡くしては成り立ちません。人は誰でも「愛したい、愛されたい、良くなりたい。」という基本的欲求を持っているといわれています。犯罪に巻き込まれ、病んでいく社会のあり方を変えるには、まず人間の「生活」のあり方が重要だと思います。このめまぐるしく価値観の変わる時代だからこそ、「生活」を大切にすると看護の重要性を痛感する毎日です。

（李 節子 記）

日本私立看護系大学協会会報 第3号
発行者：日本私立看護系大学協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4丁目1番地3号
日本赤十字看護大学内
TEL 03-5464-3086
FAX 03-3409-0589
E-mail jpnecs@jade.dti.ne.jp
編集責任者 中田まゆみ、柏井 昭良
印刷所：(株)松井ビ・テ・オ・印刷
〒320-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号
TEL 028-662-2511(代)
FAX 028-662-4278